

月去り星は移るとも

昭和60年卒 草場 律 (編集委員)

創部70周年は喜ばしいことでは、ありますが、それとともに多くの思い出深い先輩との別れを迎えることがあります。全ての方を載せられてはいませんが、偉大な先輩たちのことを少しでも記憶に留めることができればと思います。なお、寄稿者ではなく故人の卒業年次順に基本的には掲載していますが、編集等の都合で一部年次が逆転していることがあります。

平 良 先生 (メールより)

昭和60年卒 五月女 季孝

昨日、平先生の前夜式に参列してきました。前夜式では平先生の生い立ちから一生涯のご様子が紹介されたのですが、僕は初めて聞くことばかりでした。

平先生が大正15年生まれだった(我々の学生時代は60歳手前)ことや、慶應大学を退いた後、敬虔なクリスチャンとして聖学院大学の創設や港南台教会の設立にご尽力されたことなどは、まったく知りませんでした。

そんな平先生は、昨年、直腸癌との診断を受けたあと、ご自分の告別式のことなどについて、いろいろ書き残していて、その中には、バドミントン部の部旗を掲揚してほしい、と書いてあったのだそうです。

当初は、大学生は今日から始まる茨城合宿に部

旗を持って行くため、昨晚の前夜式だけ部旗を掲揚する予定だったのですが、「月曜日の告別式でも掲揚させてもらえませんか?速やかに合宿先に付します」とご遺族(お嬢様)

から依頼を受けました。もちろん快く承諾したのですが、「よかった。父は絶対に喜んでいます」と感激していました。平先生がそこまで体育会バドミントン部に愛着を持っていたのかということを知り、なんだかちょっと申し訳ない気持ちになりました。

バドミントン部の大切なサポーターを一人失ったんだなと思います。

以上、簡単ですが、平先生の前夜式のご報告まで。



関東学生リーグ戦プログラムより



昭和60年卒 早坂 靖志

本日参列して参りました。

教会いっばいに関係者が参列し、
教会や学校の設立に尽力されことや、留学のお話などが披露されました。
五月女の言うとおりに全然知らなくて、
生前にもう少し色々お話を伺っておけば良かったと後悔しましたが、

同時に充実された人生を送られたのだな、
見習わないと思いました。

最後は色とりどりのお花とともに出棺され、
とても良いお見送りでした。

以上ご報告まで。

暖かくなったら、皆でお墓参りにでも行きましようかね。

昭和24年卒 六角 勉さん（邂逅会報告、バドミントンのながれ挨拶文より）

故 六角 勉さんは、現役時代初代学連委員長としてバドミントン会に貢献をいたしました。この10年間においても、スーパーOB会である邂逅会の立ち上げ、「日本のバドミントンの流れ」という日本のバドミントン黎明期の資料の作成に多大に貢献されました。それらの功績を少しでも後世に伝えるために、次ページに第2回邂逅会のお礼の手紙の文章、次々ページに「日本におけるバドミントンの流れ」の冒頭のあいさつ文を掲載いたしました。「日本におけるバドミントンの流れ」につきましては、付録のDVDに全文を掲載していますのでご覧ください。六角さんには生前一度だけお会いしたことがありました。それは、光井の代が新入生で入部した時に光井が六角さん以来の同じ浅野高校出身ということもあり、横浜中華街で新入生歓迎会を開いたときでした。光井を紹介された

昭和60年卒 草場 律（編集委員）

とき、六角さんは予想されていたのとは違ったようで、少し残念そうでしたが、その後に光井も大きく成長して、主力として主将になったのは、六角さんもさぞやお喜びのことだったと思います。



昭和の初期にバドミントンが日本に紹介されてから、バドミントンに魅せられて、選手として、愛好者として、創生期にバドミントンの普及にご尽力なされた多くの人たちも、八十年近い年月を経た今、亡くなられる方たちも少なくなく、その当時の記録も散逸しています。

その時代にささやかながらたずさわった私としては、残念な気が致し、なんとか記録として残せないものかと思ひ、多くの方々に資料の提供をお願いし、ご好意によって集まった資料を整理し、小宮章敬氏の協力を得てこの小冊子にまとめました。

まだまだ欠落している所が多々ありますので、ご覧になった方で、資料をお持ちの方は是非、私までご一報のほどお願い致します。

平成十七年一月吉日

六角 勉



昭和27年卒 大塚 伊三夫さん（メールより）

七日、大塚先輩のお通夜にお参りさせて頂きました。現役の際、細かな指示など何1つされずに、「うん、よく頑張った」と結果を受け止めて頂きました。

最近ではあまりない、盛大な式だったと思います。

心よりご冥福をお祈りいたします。

何人か同期や後輩にも久しぶりに会えました。

帰りの道すがら、練習の進捗状況と方向の修正について、人目をはばからずに五月女監督と川口キャプテンの激しいやり取りを聞いておりました。

春リーグに向かって貴重な時間をどう有効に使

昭和60年卒 小出 行雄

ったら良いのか？

迷いながら記念館に向かった現役の時を思い出します。監督、コーチの皆さんと正面から向かいあって下さい。

インフルエンザに気をつけて、「今迄やった事もないような厳しい2カ月の練習の向こうに今迄考えられなかった程実力をつけたチームと自分がある」

寒さの厳しい冬ですが、1日1日がやはり大事と思います。

昭和60年卒 草場 律

私自身4年の時の監督だったこともあり

本日、葬儀に参列させていただきました。

OBも多数参加したときいています、地元の人でも多数参列していました。

大塚さんには多分28年前の4年生のときの1年間お会いしただけでまさか28年ぶりにこのような形で再会するとは思いませんでした。

4年生の時、環状8号線と東名の入り口の交差点一帯の地主で再開発で当時もっともファッションブルなスポットとなっていた。そこへ学生服の集団が試合結果報告と称して訪ねて行って食事をおごってもらっていました。今考えていたらいくら地主でも食事代は支払っていたよう

なのでうちの代は10人もいたので相当な出費だと思うが、見た目はやくざの親分のような風貌でしたが、優しい人で文句も言わずに受け入れてくれました。1年と短い期間でしたが、このご恩は一生忘れません。

自分も現役より大塚さんに近い年代になってしまった。平成2年に倒れて20年以上の闘病生活をされていたとは知らなかった。

自分は大塚さんに受けた恩の何万分の1でも後輩に返せたのでしょうか？

20年で自分は何をなしたのでしょうか？今後何をなせるのでしょうか？

昭和21年卒 吹野 家寿吉さん（寄せられたメールより）

こんにちは。元年卒の春名肇子（旧姓松尾）です。

大変ご無沙汰しております。

突然の訃報に驚きました。

大塚さんは私はお目にかかったことはないけれど、先輩方が嬉しそうに

「大塚さんに●●をご馳走になった」

「今度大塚さんに食べさせてもらおう」

などと話しておられた思い出があります。

私自身、先にお亡くなりになった吹野さんに大変かわいがっていただいたことを思い出しました。

当時女子で一人暮らしは私だけだったのを不憫に思われたのか試合のときにはご自身のおにぎりと一緒に私の分もお持ちくださったり次の対戦相手の試合を見て様子をお知らせくださったりと、やさしいやさしいOBでした。お年始のご挨拶に伺った折には、奥様に着物を着せていただいたこともありました。

監督時代は、竹刀を持って現役のランニングを

平成1年卒 春名 肇子（旧姓松尾）

率いていたとは夢にも知りませんでした。

辛くて部を辞めようかと迷ったときも100%信頼して応援してくださる吹野さんの存在に思いとどまったことは忘れられません。

私たちは今振り返るとびっくりするほどOB、OGのお世話になって育てられました。

受けたご恩をお返しするために今できるのは、同じ思いで後輩を見守ること、と思いながらなかなか時間が許さない現実があります。

また、顔も知らないOGが突然行っても、と躊躇したりもします。

だから、現役の方には、もっともっとOB、OGに甘えて欲しい。

それは自分自身のためにもなるし、OB、OGの喜びでもあると思います。

長々と思いついたことを書き連ねました。ご無沙汰、ご無礼、お許しくださいませ。

昭和33年卒 越川 啓さん（現役時のメールより）

平成21年卒 和栗 恵

慶應義塾体育会バドミントン部4年の和栗です。

5月19日日曜日、日吉のファカルティラウンジにて新入生歓迎会兼春季リーグ戦報告会が行われました。

沢山の方にお越しいただき、そして沢山の新生も入部をしてくれて、とても賑やかで楽しい会となりました。

また、副務・中津の初司会ということもあり、心配しつつも、会を楽しむことができました。

さて、その前日の土曜日、五月女監督と2人で越川先輩のお宅に伺いました。

いつもニコニコと優しい笑顔で、試合の応援に来て下さり、沢山のチョコレートを差し入れて下さった越川先輩にリーグ戦の報告をしました。

そして奥様から、1958年のアジア大会の資料をみせていただいたり、越川先輩がどのような方だったのか、たくさんのお話を聞かせていただきました。

その時の事を報告…と言った大袈裟かと思いますが、感想を書かせて頂きたいと思います。

たくさんのお話を伺いましたが、越川先輩が生前、話をされていたことの中で、奥様から「ぜひ現役に知っていてほしい」というお話がありました。

一つめが、お孫さんにあてたメールです。中学生の建(たつる)くんというお孫さんへ、サッカーの試合の直前に送ったメッセージです。

「勝負の神様は建がどのくらい勝ちたいと思っているか、そのためにどのくらい練習でも頑張ったか、神様はちゃんと見ていて結果が決まるんだよ。勝負の神様はえこひいきはしないよ。相手が建よりもっと勝ちたいとがんばったら、神様は相手を勝たせるよ。リードしていても、されていても、最後のフエが鳴るまで勝とうと思う気持ちが大切だよ。」

2つめは、現役へ向けての言葉です。

大切なのは楽しむこと。

楽しむことがまずあって、その上に努力をする。そうすることでもっと楽しくなるんだ。

2つの話を聞いて、リーグ戦を控えて焦っていた時、そしてリーグ戦で1勝しかできず、落ち込んでいたの自分を思い返しました。

勝ちたい、よりも勝たなきゃ、という気持ちが強かったこと。

バドミントンを楽しむことを忘れて、上手くできないことに、ただ焦っていたこと。

結局3部では勝てないのか。

いつまで経っても藤原の負担を軽くすることはできないのか。

勝てなければ意味がないと思っていたこと。

お話を聞いて、肩に乗っていた重りが外れた

ように、前向きに考えることが出来るようになりました。

今回の戦績は酷かった。

それでも、1年生の時は殆ど点数が取れなかった。

2、3年生の時はシングルスは3番手に当たれば勝てるかも、と思いながら試合をしていた。今回は帝京以外の学校の2番手とほぼ互角に戦えた。

あと少し。

秋季リーグで3部優勝2部昇格を果たすために、

インカレ出場のために、

早慶戦に勝つために、

そしてバドミントンをもっと楽しむために、

悔いの残らないように頑張っていこうと思います。

そして他の部員にも、バドミントンを楽しむことを大切にしてほしいと思います。

最後に、3つ目のエピソードになりますが、越川先輩は、これから日吉までの定期を買って、頻繁に現役の練習を見ようとしていたそうです。現役を見ていると元気をもらえると。

こんなにも現役を想ってくださっていたんだと、もっとお話をたくさんしたかったと、胸がつまる思いでした。

自分が、どれだけたくさんの方に見守られているか、そしてバドミントンだけではなく、人生の大先輩からたくさんのお話を教えていただけた、恵まれた環境にいるのかを改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

稚拙な文章でしたが、ご精読ありがとうございました。

もっと早く報告させていただこうと思っていたのですが、自分の考えや思いを、うまく文章にすることができず、かなりの時間がかかって

しまいました。
申し訳ありません。

これからも応援宜しくお願いします！！

越川さんを偲ぶ写真 2007年度女子リーグ戦等



昭和45年卒 本牧 慶三さん

横浜銀行の広報室で、コマーシャルや、キャラクター等を考えていた頃ですので、40歳前後でした。ある朝、目の奥が痛い一言に始まり、徐々に視力の低下にともない、原因不明のまま両耳の聴力も失った頃、やっと慢性肥厚性硬膜炎と診断。当時は世界でも7症例しか報告

昭和45年卒 広本 鮎子

されてなく、有効な治療方法もなくこれ以上進行しないようにと考えられる全ての治療を開始。しかしその後、腎機能が低下し、人工透析も開始。

視力が悪くなりだして磯子視覚障害者に所属。自分より視力の悪い人のボランティアをし

ながら手話・視覚障害者のためのテーブルマナーを勉強。しかし、聴力を失い視覚障害者とコンタクトの手段がなくなってから、神奈川県ゆりの会という盲聾啞者の会に属し目と耳の両方に障害を持つ子供達のために作業所を設立する活動に専念。しかし開所式を目前に闘病生活に入る。

心不全に倒れ入院治療一年半。退院して再び、明るく前向きに社会貢献に専念し始めた頃、水頭症で倒れ、感染症を併発するも、立って歩くまでに回復。自宅に帰ることを目標にリハビリに専念するも、敗血症に倒れ、その後肺炎を繰り返し腹膜炎による大手術も乗り越え、担当医

が「スーパーマンですね」と。胃ろうによる食事も乗り越え、普通食をおいしく食するまでに回復。長男の結婚式にも参列。

再びリハビリに一生懸命取り組むも、H23年10月8日肺炎を起こして、永い眠りにつきました。

以上本牧さんの奥様よりお聞きしました。同期の古沢さんは、卒業後もずっと本牧さんの良き友人として常にそばにいてくれたようです。時々たま会う同期の集まりでも、本牧さんは、いつも気丈で、時には冗談も言ってわたしたちを笑わせてくれたのが忘れられません。ご冥福をお祈りいたします。

<私からひとこと> (わくわく通信2008年No5より)

還暦を迎えて

私は昭和23年3月に生まれ今年還暦になります。50才位に見られますが、頭も年齢についてゆけず40才くらいというところです。誕生日のお祝いの品は、特別良い物を頂けるのではと今から楽しみにしています。

小学校の頃は目と口が大きく坊ちゃん刈りだったことから「カップ」と呼ばれていました。特に6年生の時には学校の中でも一番背が高くヒョロッとした感じになり、顔も逆三角形だったことから「カマキリ」とか「電信柱」などと呼ばれていました。中学に行くとその面影はなくなり「ホンちゃん」「モクさん」と呼ばれるようになりました。でもそれはまれで敬意をもって「ホンモクさん」と呼ぶ人が多くなりました。それは生徒会長・会長を歴任したからです。足の方は相変わらず早く、運動会の100mで優勝していました。高校・大学ではバドミントン部に入部しました。お正月にやるのはバドミントンといって羽つきみたいなものを言いま

すが、「ト」に濁点が付く「バドミントン」はかなり激しいスポーツなんです。高校2・3年にはインター杯予選まで行っています。横浜銀行に就職してからのおもいでは優秀な人が多く、私の向上心を満足させてくれたこと、そして「忙しかった」事でした。ふり返ると「光陰矢の如し」という言葉が浮かんでくると共に、布施明さんの「シクラメンのかおり」の一節、「呼び戻すことが出来るなら僕は何を惜しむだろう」という歌詞を口ずさんでいました。

本牧慶三



平成24年邂逅会などでお聞きした故人の思い出

昭和19年卒 森友 徳兵衛さんについて
(昭和34年卒 木村 亮一)
当時監督で、卒業生の就職先の世話までよくみてくれた。

昭和23年卒 橋本 公雄さんについて
(昭和60年卒 草場 律)
立教出身の弟さんと慶立印刷という印刷屋さんをやられていて、創部50周年部誌の印刷ではお世話になりました。編集の最後に新宿の喫茶店でお会いしました。

昭和29年卒 磯見 精祐さんについて
(昭和29年 内田 博道)
慶応高校出身で合宿での立ち振る舞いや女性に対しての態度は洗練されていた。
同窓会ではよく会っていたが、なくなってしまうとは信じられない。

昭和32年卒 岡本 圭さんについて
(昭和60年卒 草場 律)
ダイアナ妃と同じ命日
現役時代、幹事長だった思う、入れ替え戦で1部昇格が決まった時、銀座の岡本さんのビルで祝賀会をやったのを覚えている。陽気で粋な人で「セイ、セイ、セイ」、「ベロンチョばんばん」とか独特の語彙をもつ人だった。

昭和34年卒 福田 龍太さんについて
(昭和34年卒 木村 亮一)
中等部から同窓で、体育会に入れば早慶戦で良い席に座れるというので入ったら走ってばかりでマラソン部のような感じだった。

昭和35年卒 土田 佳子さんについて
(昭和34年卒 木村 亮一)
有名な木琴奏者 平岡洋一さんのお嬢さん。

昭和35年卒 都築 秀夫さんについて
(昭和34年卒 木村 亮一)
10回クラブという同窓会で一緒だった。10回クラブは幼稚舎で練習していたころ、罰則でグラウンド10周したことにちなんで命名。

昭和40年卒 木目 嘉崇さんについて
(昭和60年卒 草場 律)
関西のOB会の重鎮
現役のころ山本さん、宮崎さん、森下さんがいらして女子では全日本女子トップのサントリーに遠征してとき、関西OB会で激励会を開いてくれた。

昭和43年卒 金原 俊次さんについて
(昭和60年卒 草場 律)
バドミントン部、OB会を永年支えてこられた功労者。高校時代四国チャンピオンと対戦して最後にスマッシュでなくドロップを打って勝った話が妙に心に残っている。

